

項 目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築	NO	2-4
-----	------------------------	----	-----

事業名	鳥獣保護管理法推進事業		
事業費	1,911 千円	担当部局課	環境エネルギー部 みどり自然課

## 1 目的

- (1) ニホンジカに関する現地調査  
ニホンジカの生息情報収集、群れや個体の行動モニタリング及び行動解析を実施し、その結果に応じた森林の管理や利用方法、ニホンジカへの対策等の検討を行う基礎資料とする。
- (2) 里山に出没する大型野生動物生息動向調査  
県内の大型野生動物の生息情報収集等を実施し、野生鳥獣に対する対策等の検討を行う基礎資料とする。
- (3) ニホンジカ、イノシシ生息動向調査  
ニホンジカ、イノシシの目撃情報収集等を実施し、野生鳥獣に対する対策等の検討を行う基礎資料とする。

## 2 事業概要

- (1) ニホンジカに関する現地調査  
ニホンジカの目撃情報の集積と解析、目撃場所の生息環境調査を実施。
- (2) 里山に出没する大型野生動物生息動向調査  
大型野生動物について自動撮影カメラによる生息動向調査等を実施。
- (3) ニホンジカ、イノシシ生息動向調査  
県内に生息域を広げるニホンジカやイノシシの目撃情報の収集を実施。

## 3 成果と課題

### 【成果】

- ・ 平成27年度は26年度と同様に年間20件以上の目撃情報の整理・分析によりニホンジカは全県に生息している可能性が高く、特に秋に目撃されている。目撃されやすいのは周辺に森林がある平坦な耕地で近隣に道路や河川がある場所である。このまま、個体数が増えれば森林被害が出る可能性がある。
- ・ 里山に出没する大型野生動物生息動向調査では、自動撮影カメラによる調査等より、県内に従来から生息していたツキノワグマ及びニホンザルのほか新たに侵入しているニホンジカの出没や被害状況を把握でき、野生鳥獣対策等の検討を行う基礎資料が得られた。
- ・ ニホンジカ、イノシシ生息動向調査では、県内へ進入している大型野生動物等の目撃情報を収集し野生鳥獣対策等の検討を行う基礎資料が得られた。

### 【課題・対応】

- ・ 監視体制を強化し、現地調査を継続し、県内におけるニホンジカやイノシシ等新たに進入している大型野生動物の情報収集に努める必要がある。
- ・ また、調査で得た情報については、市町村や農林部局など関係者だけでなく、一般県民へ周知し、被害防除対策に役立必要があるため、ホームページ等により公開する。

## やまがた緑環境税を活用した取組み

### 【平成27年度鳥獣保護管理法推進事業の取組事例】

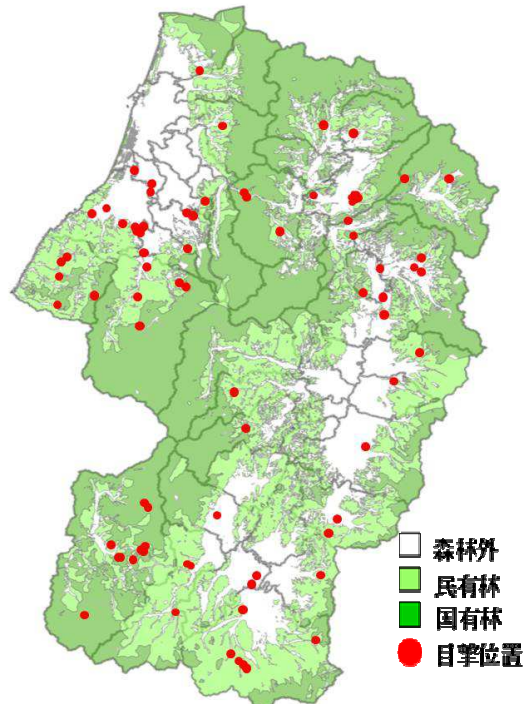
#### 平成27年12月31日現在の目撃等件数

年	市町村	地区	確認個体数		
			オス	メス	不明
H21年度	大石田町	檜沢			1
	楡引町	西荒谷			1
	村山市	土生田			1
	山形市	滑川			1
	上山市	菅浦			1
H22年度	村山市	金谷			1
	鶴岡市	木野俣			1
	大江町	柳川	1		
	朝日町	白倉	2		
	米沢市	綱木	1	1	
H23年度	米沢市	綱木	1		
	小国町	小国小坂町	1		
H24年度	川西町	中郡 堀金		2	
	川西町	中郡 時田		2	
	米沢市	落合		2	
	最上町	志茂 薬師原	1		
	新庄市	東山	1	1	
	新庄市	金沢	1	1	
	新庄市	金沢	1	1	
	新庄市	鳥越	1	1	
	新庄市	金沢	1	1	
	新庄市	金沢	1	1	
	戸沢村	角川		1	
	新庄市	金沢		1	
	鶴岡市	添川	1		
	鶴岡市	羽黒町手向	1		
	鶴岡市	羽黒町戸野地	1		
	真室川町	川ノ内	1		
	小国町	綱木箱の口	1		
小国町	大滝	1			
H25年度	金山町	内野 宝円寺	1	1	
	鶴岡市	山五十川		1	
	鶴岡市	本郷 細越	1		
	鶴岡市	田麦俣 六十里街道	1		
	鶴岡市	大針 沖ノ前		1	
	鶴岡市	山五十川	1		
	米沢市	入田沢			1
					0

年	市町村	地区	確認個体数		
			オス	メス	不明
H26年度	小国町	綱木箱の口	1	1	1
	小国町	大滝			1
	小国町	伊佐領		1	
	尾花沢市	高橋		1	
	尾花沢市	正殿	1		
	尾花沢市	尾花沢	1		
	尾花沢市	毒沢	1		
	遊佐町	杉沢	1		
	鶴岡市	小名部	1		
	鶴岡市	金峰山	1		
	戸沢村	高屋		1	
	鶴岡市	茅原	1		
	鶴岡市	大網			1
	米沢市	綱木	2		
	鶴岡市	湯田川	1		
	東根市	泉郷	1		
	長井市	寺泉 安の沢川	1		
	鶴岡市	由良	1		
	鶴岡市	道地 茨新田			1
天童市	荒井原	1			
尾花沢市	鶴巻田	1			
飯豊町	中津川			1	
H27年度	酒田市	中野俣 相掛沢			1
	小国町	箱ノ口		1	
	舟形町	舟形 紫山	1		
	米沢市	万世町刈家	1		
	鶴岡市	金峰山	1		
	鶴岡市	湯温泉 獄之腰	1		
	最上町	富沢木ノ沢	1		
	鶴岡市	荒倉山久平林	1		
	鶴岡市	宮観寺	1		
	上山市	二井宿付近	1		
	新庄市	福田	1		
	飯豊町	手ノ子	1	1	
	小国町	金目	1		
	飯豊町	手ノ子	1		
	鶴岡市	旧朝日村八久和山原	1		
	鶴岡市	天狗森	1		
	戸沢村	古口	1		
小国町	針生平広葉樹林	1			
高島町	金原	1			
目撃件数計:80件			観察推定個体計 オス46 メス14 幼獣1 不明11		

#### ニホンジカが目撃されやすい立地の判定基準

環境区分	程度	スコア	観察地点	平均標準偏差
傾斜	0~10度	10	43	8.3
	11~20度	5	5	
	21度以上	1	8	
耕地と森林を中心とした位置	森林	1	13	3.7
	森林に近い耕地	3	14	
	耕地の中心	5	8	
	人家に近い耕地	10	10	
開空度	その他	1	11	7.0
	121~180度	10	29	
	61~120度	5	19	
	0~60度	1	8	
車道からの距離	0~20m	10	42	8.4
	21~50m	5	9	
	51m~	1	5	
河川・沢・水路からの距離	0~20m	10	20	5.5
	21~50m	5	18	
	51m~	1	18	
シカが目撃されやすい (スコア 9~50)				32.9
★スコア値の評価				10.6
		44以上	非常に発見されやすい	
		23~43	発見されやすい	
		22以下	まれに発見される	



周囲には森林がある地形が平坦な耕地  
近隣には道路や河川がある場所

項 目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わり構築	NO	2-5
-----	-----------------------	----	-----

事業名	生物多様性戦略推進事業		
事業費	4,180 千円	担当部局課	環境エネルギー部 みどり自然課

## 1 目 的

森林生態系を始めとする自然環境について、総合的なモニタリング調査を実施して、早期に異変等を把握し、必要に応じて保全対策を実施し、「多様な生態系を育む、みどり豊かな山形」を未来に継承していく。また、調査結果等を蓄積するとともに、広く県民に情報提供を行い、生物多様性の保全と持続可能な活用に向けた意識の醸成や普及啓発を実施する。

## 2 事業概要

### (1) 自然環境現況調査

- ・ 森林を取り巻く自然環境の異変等を早期に察知するため、動植物の生育・生息動向などの自然環境の変化を継続的にモニタリングするもので、県内の「生態系」別の調査を実施した。(風穴、湿原等)

### (2) ブナ・ナラ豊凶調査

- ・ 県内30箇所の調査サイトについて、動物の生息・生育動向に大きな影響を与えるブナ等堅果類の豊凶について継続した調査を実施した。
- ・ 秋季の森林環境の異変と動物の出没動向に影響する「山の実り」を把握するため、関係者に対するアンケート調査を実施した。(山の実り調査)

### (3) 希少野生生物分布調査

- ・ 絶滅危惧種を取りまとめた山形県レッドリスト、レッドデータブック(動物版)の改訂を行うため、県内分布・生息状況の調査を実施した。(平成27年度は淡水魚類、哺乳類、両生類、爬虫類、陸産・淡水産貝類、甲殻類の調査を実施)
- ・ 飛島の島しょ地域において、カンムリウミスズメ、ウミスズメ及びウトウの繁殖状況の調査を実施した。今年度は繁殖確認に至らなかったが、可能性は高いと考えられ、特に、希少鳥類であるカンムリウミスズメとウミスズメの同じ場所での繁殖が確認されれば、日本初、世界で2例目となる。

### (4) 山形県レッドデータブック動物版改訂に向けた関係会議の開催

- ・ 県内の絶滅危惧種をまとめたレッドリスト改訂のための専門的な評価、検討を行うため、魚類において学識経験者、専門家で構成した山形県レッドリスト等掲載種選定委員会を開催した。

### (5) 外来生物分布状況調査

- ・ 本県の生態系に悪影響を及ぼしている外来生物について、防除対策の基礎資料とするため、県内の重要な生態系において分布調査を実施した。

調査箇所：①蔵王(山形市)②奥山寺(山形市)③月山周辺(西川町)④鳥海山周辺(遊佐町)  
⑤飯豊山周辺(小国町)⑥海谷湿地(大石田町)⑦粥持田湿原(白鷹町)

### (6) 自然環境モニタリング総合検討委員会の開催

- ・ 自然環境モニタリング調査の方法の検討や結果の分析、対策の検討を行うため、専門家等で構成する自然環境モニタリング総合検討委員会を開催した。

## 3 成果と課題

### 【成果】

- ・ 各種調査の実施により、希少な動植物の生育状況や本県の生態系等に影響を与える恐れのある外来生物の侵入状況、野生鳥獣の出没予想に活用できるブナ・ナラの豊凶の動きなどを把握することができた。

### 【課題・対応】

- ・ 検討委員会での意見を踏まえ、調査対象地や調査方法を検討しながら、引き続きモニタリング調査を継続する必要がある。
- ・ 調査で得た情報については、県の関係部局や市町村、県民と共有し、森林生態系の保全や被害防除対策に役立てる必要がある。

## やまがた緑環境税を活用した取組み

平成 27 年度生物多様性戦略推進事業  
(自然環境総合モニタリング事業) の取組状況

雄花等回収トラップ

ブナ・ナラ豊凶調査  
【県内30箇所】

ブナの雄花

果実

平成25年 県内ブナ豊凶調査と豊凶予測

HPで情報発信

水生昆虫の捕獲調査

植生調査

山岳地の踏査

前年度調査 → 保全対策の事例  
(希少植物の埋土種子の探索)

自然生態系保全調査 (自然環境や希少野生生物の現況調査)

各種委員会

- ・ 自然環境モニタリング総合検討委員会  
調査の手法や実施箇所等の見直しについて検討等を行った。
- ・ 山形県レッドリスト等掲載種選定委員会  
山形県の絶滅危惧種を取りまとめたレッドリストを改訂するため、専門家による評価、検討を行った。今年度は魚類が対象。

希少野生生物分布調査 (希少海鳥繁殖状況調査)

【カンムリウミスズメ】      【ウミスズメ】

飛島の島しょ地域において、カンムリウミスズメ、ウミスズメ及びウトウの繁殖状況について調査を実施。両種の繁殖確認には至らなかったが、カンムリウミスズメは多数確認され、繁殖の可能性が高いと思われる。

なお、カンムリウミスズメとウミスズメは、絶滅が危惧される希少鳥類であり、両種の同じ場所での繁殖が確認されれば日本初、世界で2例目である。また、カンムリウミスズメは日本の北限、ウミスズメは日本の南限の繁殖地となる。

項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築		NO	2-6
事業名	大型鳥獣等野生復帰事業			
事業費	1,423 千円	担当部局課	環境エネルギー部 みどり自然課	

### 1 目的

人と自然が共生する森づくりの一環として、森林生態系を支える多様な野生鳥獣の保護のため、傷病等で救護又は捕獲された大型鳥獣の野生復帰の総合的な治療訓練、移送、放鳥獣を行う。

### 2 事業概要

野生鳥獣の専門家（獣医師等）を擁する事業所に委託し、傷病等で捕獲された野生鳥獣を野生に復帰させる。

- ・ 県内各地で保護された野生鳥獣に対し、必要に応じて現場で治療を行い、地域住民等の協力を得て、安全な奥山等へ移送し放鳥獣する。
- ・ 県内の野鳥救護所及び野生獣類救護所で救護され、状態が落ち着いた野生鳥獣を救護所から引き受け、必要に応じて総合的な治療訓練を行い、安全な奥山等へ移送し放鳥獣する。

### 3 成果と課題

#### 【成果】

- ・ 救護所の巡回指導により、収容されている鳥獣の治療訓練及び現地における治療を実施した。

#### 【課題・対応】

- ・ 野生鳥獣の保護については、県内7箇所の傷病救護所が担っているが、猟友会会員等によるボランティア的な運営のため高齢化が進み、継者不足であること及び山形県内で本業務を実施できるのは、上記の獣医師1名であることなどが問題である。
- ・ そのため、野生動物の救護に関する研修会を開催し、県内における野生鳥獣の救護業務を担う人材の育成を図る必要がある。

やまがた緑環境税を活用した取組み  
【平成27年度大型鳥獣等野生復帰事業取組事例】



救護した野生鳥獣の状況

項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築		NO	2-7
事業名	総合クマ対策推進事業			
事業費	2,049 千円	担当部局課	環境エネルギー部 みどり自然課	

## 1 目的

- (1) ツキノワグマ生息状況調査  
森林生態系の構成要素であるクマについては、年間の捕獲数上限を定めた上で、個体数管理をするというツキノワグマ管理計画の目的を達成するため、生息動向調査を実施する。
- (2) 初心者講習会の実施  
森林生態系の構成要素である野生動物の保護管理を担う狩猟者を育成するため、研修会を実施する。

## 2 事業概要

- (1) ツキノワグマ生息状況調査  
残雪期にクマを追い出し、直接目視により個体数をカウントする方法（①直接観察法）と地域を定めてルートを歩いて足跡や糞など痕跡を確認する方法（②痕跡調査法）による調査。
- (2) 初心者講習会の実施  
狩猟免許受験希望者に対し、鳥獣保護管理法、わな・猟銃等技能、野生鳥獣との共生の意義等について、事前に理解を深めてもらう狩猟試験初心者講習会の開催。

## 3 成果と課題

### 【成果】

- ・ ツキノワグマ生息状況調査により、県内のツキノワグマの生息頭数を把握するとともに、次年度の捕獲数上限の基礎データが得られた。
- ・ 初心者講習会を県内2箇所で開催。  
7月14日（火） 村山会場 113名参加（H24:34名 H25:64名 H26:80名）  
7月24日（木） 庄内会場 43名参加（H24:12名 H25:34名 H26:20名）

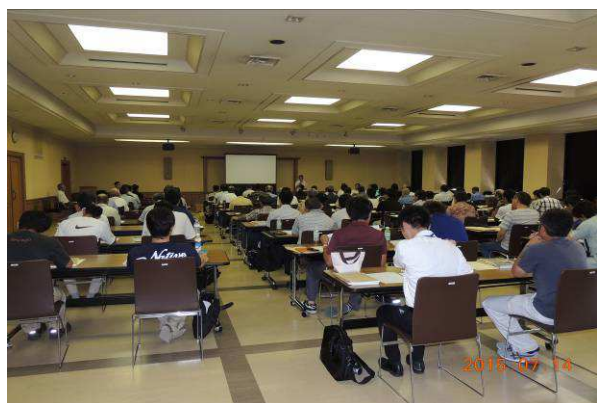
### 【課題・対応】

- ・ ツキノワグマ管理の基礎数値として毎年度の生息数を推定するため、県猟友会に委託して目視調査を実施してきたが、狩猟者の高齢化と減少により継続困難な地域が生じている一方、目視調査による生息数推定は精度が低く不適切、との意見が寄せられ、調査手法の見直しが必要になっていることから、自動撮影カメラを用いたカメラトラップ調査を一部地域で導入し、翌年度以降の他地域における拡大を検討していく。
- ・ 講習会参加者が増加しているため、今後は回数を増やして、初心者講習会を継続して実施し、新規狩猟者の人材育成に努める必要がある。

やまがた緑環境税を活用した取組み  
【平成27年度総合クマ対策推進事業の取組事例】

狩猟免許取得初心者講習会

平成27年7月14日村山会場(113名参加)の実施状況



平成27年7月19日庄内会場(43名参加)の実施状況

